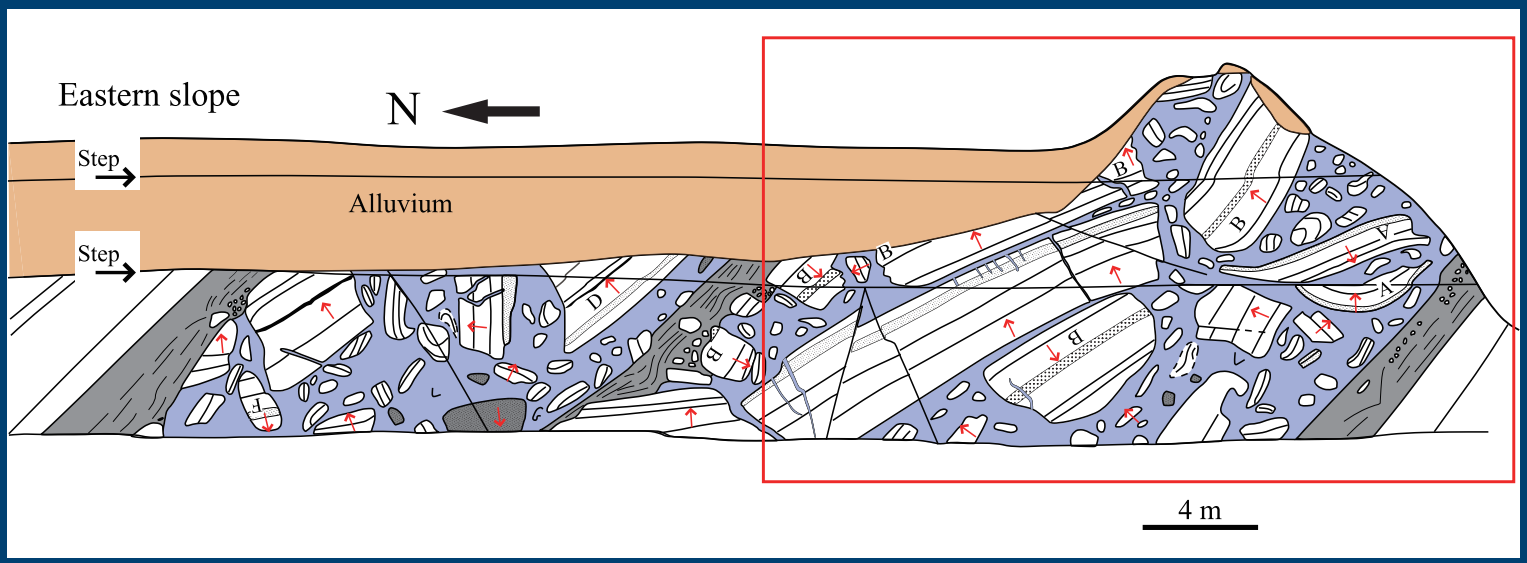
地質学雑誌　第113巻　第10号（通巻1345号）付録　昭和27年6月10日第三種郵便物認可　平成19年10月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.10 No.10 October 2007

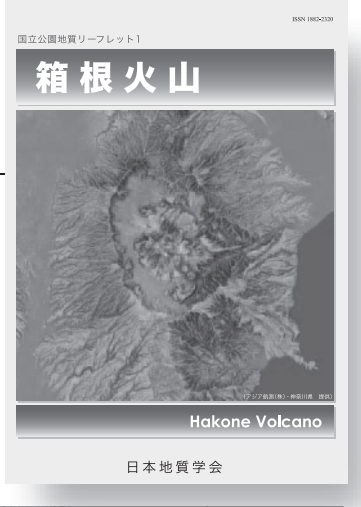


日本地質学会各賞規約の改定について
2008年度日本地質学会各賞候補者募集のお知らせ

好評発売中 !!

国立公園地質リーフレット1.

箱根火山



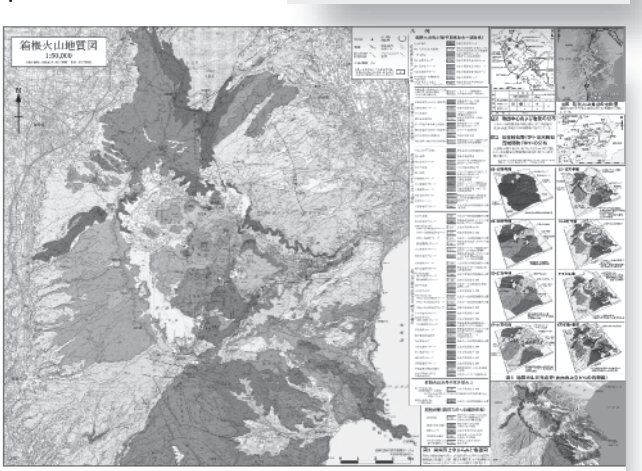
日本地質学会国立公園地質リーフレット1「箱根火山」編集委員会編

会員頒価　1000円（20部以上の場合は割引あり）

Ｂ２版．5万分の１地質図と解説からなります．箱根火山の研究史から最新の研究成果までフルカラーで詳しく紹介されています．
紙は，水に強く、鉛筆等での書き込みも容易なレインガード紙を使用していますので野外での調査・巡検に最適です．広くご活用下さい！

学会では今後各地の国立公園をターゲットに,地質リーフレットを製作していく予定です．子供版「箱根火山たんけんマップ」ともども，皆様のご意見・ご要望をお待ちしております．

※学会で販売するほか,神奈川県立生命の星地球博物館や箱根周辺の土産物ショップなどでも販売しています



子供版とセットでいかがですか・・・。

国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ1

箱根火山たんけんマップ一今、生きている火山

会員頒価　300円

A2版両面フルカラー印刷.
ハンディタイプで野外での観察に最適です.
教材としてもぜひご活用下さい.

小・中学生向け地質リーフレット新登場.
さあ！フィールドたんけんに出かけよう。

購入希望の方は、学会事務局まで
e-mail: main@geosociety.jp　FAX 03-5823-1156

日本地質学会*News*

Vol.10 No.10 October 2007

The Geological Society of Japan *News*
日本地質学会/〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15
井桁ビル ６F
編集委員長　倉本真一
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

planetearth®
Earth Sciences for Society
2007 – 2009

Contents

日本地質学会各賞規定の改正について ……2
１．日本地質学会運営細則の改正/２．日本地質学会各賞選考に関する規約（全文掲載）/日本地質学会賞，国際賞，小澤儀明賞・柵山雅則賞の選考に関する申し合わせ
2008年度日本地質学会各賞候補者募集について ……4

案内 ……5
日本土地環境学会2007年シンポジウム/国際惑星地球年（IYPE）学生コンテスト/ウインター・サイエンスキャンプ ’07-’08

公募 ……6
信州大学大学院テニュアトラック助教公募/大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻助教公募/公募結果/平成20年度東京大学海洋研究所共同利用研究公募

紹介 ……7
地球史が語る近未来の環境　日本第四紀学会編（井内美郎）

ジオロジストのための法律メモ ……8
　著作権譲渡等同意書の解説（23）

CALENDAR ……8

地学教育のページ ……9
小学校における地学教育の深化をもとめて－阿部國廣氏の公開授業報告（矢島道子）

TOPIC ……10
タイ国恐竜博物館Sirindhorn Museumを訪れて（堀内　悠ほか）

院生コーナー ……11
南海掘削研究集会参加報告（宮川歩夢）/研究室紹介　九州大学大学院理学研究院附属地震火山観測研究センター（長井大輔）

表紙紹介 ……12
地震が作り出した芸術：巨大乱堆積物（山本由弦・坂口有人）

2008年度（2008.4～2009.3）院生割引会費受付中 ……13

追悼 ……14
名誉会員　大久保雅弘先生を偲ぶ

会費口座振替依頼書 ……15

日本地質学会2008年度
会長・副会長・監事・代議員および役員選挙

投票期間：11月15日（木）～12月15日（土）

立候補受付期間：10月１日（月）～31日（水）
選挙広報・投票用紙の発送　11月10日前後に郵送

詳しくは，学会HP・ニュース誌９月号をご覧下さい．

2008年度会費口座引き落としのお知らせ

振替予定日：**12月25日（火）**

新たに会費の口座引き落としをご希望の方は，巻末の振替依頼書を**11月13日（火）**までに事務局までお送り下さい．また，すでに引き落とし手続きが完了している方で，院生割引会費の適用を希望される方は，**11月22日（木）**までに院生割引申請書をご提出下さい．期日までにご提出いただけない場合は，正会員の会費で引き落としがかかります．ご了解下さい．

事務局営業カレンダー　■ お休みです

11月/November

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12月/December

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	～1/6までお休み				

広告一部取扱：株式会社廣業社
〒104－0061 東京都中央区銀座8－2－9　電話 03－3571－0997　　印刷・製本：日本印刷株式会社

日本地質学会各賞規定の改正について

2007年９月30日
日本地質学会理事会

会員各位

このたび，各賞に関する運営細則の一部，および各賞選考に関する規約の一部が変更されましたので，お知らせいたします（理事会および評議員会承認）．また，条文の表現の不統一などが見いだされたので，それらも変更しました．改正の骨子は以下のとおりです．本改正内容は，2008年度の募集・応募より施行いたします．これに基づいた応募要項は，本号に別途掲載されています．

１．本改正の趣旨

学会賞，国際賞，小澤・柵山賞に関して，各賞の選考が多くの推薦の元で，より効果的かつ迅速に行われることを目的として，「日本地質学会運営細則」と「日本地質学会各賞選考に関する規約」の改正を行うとともに，各賞の定義や手続き上の不明確部分について補足を行った．なお，この改正に関連し，上記３賞の理事会推薦の際に理事会が推薦委員会を設置しこれを諮問する事が，評議員会で了承された．

２．主要改正点

１）推薦手続きおよび応募書類の簡素化

応募書類（推薦書類）を見直し，必要な書類は候補者自身が作成するように変更する．業績欄に客観的指標（引用度やインパクトファクター）についても記載するようにする．

２）国際賞の定義の追記

他の賞の定義と同様に内容を追記し，意義を明確にした．

３）国際賞の顕彰人数の制限

顕彰費用の確実な予算化のため，１年度の顕彰は１名とする．

４）日本地質学会優秀講演賞の名称変更

実質的にはポスター発表を対象としている，「優秀講演賞」の名称を「優秀ポスター賞」に名称変更する

５）学会賞，国際賞，小澤・柵山賞に対する理事会推薦の手続き

当該の各賞の理事会推薦において，適切な候補者が確実に推薦される事を目的とし，理事会が推薦委員会を設置して候補者を選定できることとした．

３．上記改正にともなう，2008年度の募集期間の短縮について

各賞の選考は，これまで１月末で募集を締め切り，その後，約２ヶ月間で選考を進め，４月の評議員会までに結果を出していた．このスケジュールでは，選考から決定までに時間的に十分な余裕がないことから，かねてより選考委員会，評議員会等でも検討されてきた．

ついては，これらのことを解決するため，2008年度の選考より募集の〆切を１月末から，12月25日に１ヶ月早めることとした．なお，規約上，会員に対する広報は３ヶ月前におこなうことになっているので，本来なら９月号のNews誌で広報すべきであるが，規約変更等もあり，今回に限って募集期間が１ヶ月短くなることをご了承いただきたい．

以上

１．日本地質学会運営細則の改正

＊下線部，太字箇所が今回の改正内容.

（関係条文のみ抜粋）

第11章　表　　彰

（表彰）

第39条　本会は地質学に関する優秀な研究業績を納めた会員もしくは地質学の発展・普及に貢献のあった会員等に対し，表彰を行う．

２．表彰の内訳は次のとおりである．

(1) 日本地質学会賞：地質学に関する優秀な業績をおさめた会員

(2) 日本地質学会国際賞：**地質学に関する画期的な貢献があり，加えて日本列島周辺域の研究や日本の地質研究者との共同研究などを通じた**日本の地質学**の発展に関する**顕著な功績があった非会員

(3) 日本地質学会論文賞：「地質学雑誌」あるいは「**Island Arc**」に優れた論文を発表した会員

(4) 日本地質学会小藤賞（短報賞）：「地質学雑誌」に重要な発見または独創的な発想を含む短報を発表した会員

(5) 日本地質学会研究奨励賞：「地質学雑誌」あるいは「**Island Arc**」に優れた論文を発表した**満**35才未満の会員

(6) 日本地質学会**優秀ポスター賞**：本会が主催する講演会等において優秀な**ポスター**発表を行った会員

(7) 日本地質学会功労賞：長年にわたり地質学の発展に貢献のあった会員および非会員

(8) 日本地質学会表彰：地質学の教育活動，普及・出版活動，新発見および露頭保全，あるいは新しい機器やシステム等の開発等を通して地質学界に貢献のあった非会員の個人，団体および法人

(9) 日本地質学会永年会員顕彰：地質学会において長年にわたって活躍してきた会員

(10) 日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞：地質学に関して優れた業績を上げた**満**37歳以下の会員

(11) 日本地質学会Island Arc賞：Island Arc誌に発表され，世界の地質学の発展に貢献した優れた論文（総説を含む）．著者は会員・非会員を問わず，共著の場合は全員を受賞者とする．

３．表彰は，別途定める規約に従い，各賞選考委員会が受賞候補者の選考を行って，評議員会が候補者を決定し，理事会及び総会の承認を経て行う．

運営細則　附則　追加

１．第39条２項の変更後の規則は，2007年９月30日から施行する．

２．日本地質学会各賞選考に関する規約（全文掲載）

＊下線部，太字箇所が今回の改正内容.

（1984.3.27施行　1986.6.21一部改正　1988.4.1一部改正　1994.3.27一部改正　1997.4.3一部改正　2001.9.20一部改正　2001.12.8一部改正　2003.12.13一部改正　2005.9.17一部改正　2006.9.15一部改正　**2007.9.30一部改正**）

１．日本地質学会運営細則第11条（表彰）の各賞選考に関する運営は，この規約によるものとする．

２．各賞選考委員会の委員は，理事会により推薦された前・現編集委員長および副委員長４名，Island Arc前・現編集委員

長および評議員により互選された委員10名で構成される．評議員より互選される委員の任期は2年とし，1年ごとに半数改選とする．委員長は委員間の互選とする．ただし，選考委員会委員が受賞候補対象者となった場合は，該当する賞の選考には関与しないこととする．
なお，各賞選考委員会は，日本地質学会賞，日本地質学会国際賞，日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞ならびに日本地質学会Island Arc賞に関しては，選考検討委員会を設置して，諮問することができる．

3．日本地質学会賞の授与は原則として毎年とし，受賞候補者の応募に関する細目は次のとおりとする．
1）応募資格：正会員もしくは名誉会員，ならびに前記のものを代表とするグループ
2）応募方法：会員および理事会による推薦（自薦も可）．所定の様式による．

4．日本地質学会論文賞の受賞対象は次のとおりとする．
1）応募開始年9月までの過去3年間に地質学雑誌に発表された論文
2）応募開始年3号（9月）までの過去3年間に**Island Arc**に発表された筆頭者が本会会員による論文

5．日本地質学会研究奨励賞の受賞対象資格者は次のとおりとする．
応募開始年9月までの過去2年間に地質学雑誌および**Island Arc**に発表された論文で，応募開始年9月末日で満35才未満の正会員および準会員．筆頭著者であれば共著でもよい．

6．日本地質学会小藤賞の受賞対象は次のとおりとする．
応募開始年9月までの過去1年間に地質学雑誌に発表された短報．

7．日本地質学会功労賞の受賞候補者の応募に関する細目は次のとおりとする．
1）応募資格：本会会員もしくは非会員，またはこれらを代表するグループ
2）応募方法：評議員，支部，または理事会による**推薦**，所定の様式による．

8．日本地質学会**優秀ポスター**賞の受賞候補者の応募および選考に関する細目は次のとおりとする．
1）応募資格：別途本委員会が定める講演会において発表した**ポスター講演**の講演者またはこれらを代表するグループ
2）選考委員の追加：各賞選考委員会は本賞に限った**優秀ポスター賞**選考委員を任命し，その意見を選考の参考にすることができる．

9．日本地質学会表彰の応募に関する細目は次のとおりとする．
1）応募資格：非会員の個人，団体または機関
2）応募方法：評議員，支部，または理事会による**推薦**，所定の様式による．

10．日本地質学会国際賞の応募に関する細目は次のとおりとする．
1）応募資格：非会員
2）応募方法：会員，支部，または理事会による推薦，所定の様式による．
3）国際賞の授与は毎年度1名以下とする

11．日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞の応募に関する細目は次のとおりとする．
1）応募資格：応募開始年の9月末日で**満**37歳以下の会員．
2）応募方法：会員**および理事会**による推薦（自薦も可），所定の様式による．

12．日本地質学会Island Arc賞の授賞対象は次のとおりとする．選考開始年の3年前と2年前にIsland Arc誌に発表された論文．

13．日本地質学会賞，日本地質学会国際賞，日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞の3賞に関しては，理事会はそれぞれの推薦委員会を設置し，その意見により理事会による推薦を行うことができる．
14．各賞の応募に関する公示は，応募締め切り期日の3カ月前までに，News誌等で，会員に対して行う．

推薦注）
地質学会賞，研究奨励賞，小澤儀明賞・柵山雅則賞の受賞候補者は，過去においてそれぞれの賞を受けていないこと．
附則
(1) 本規約の変更は評議員会の議決による．
(2) 本規約の，2007年9月30日の一部改正は同日から施行する．

日本地質学会賞，国際賞，小澤儀明賞・柵山雅則賞の選考に関する申し合わせ

2007年9月30日
日本地質学会理事会

1．選考検討委員会（各賞選考規約，第2項）に関する申し合わせ
選考委員会選考検討委員会の構成は以下の様にする
学会賞・国際賞選考検討委員会（15名前後）：前・現地質学会長，過去3年間の日本地質学会賞受賞者，前・現地質学雑誌編集委員長，前・現Island Arc編集委員長，理事会が推薦する若干名（2名程度）．ただし委員が受賞対象候補となった場合は，該当する賞の選考には関与しない．

2．推薦委員会（各賞選考規約第12項）に関する申し合わせ
1）各賞推薦委員会の構成は以下の様にする．
日本地質学会賞：過去10年間程度の日本地質学会賞受賞者
日本地質学会国際賞：学術会議会員，連係会員，および過去10年程度の日本地質学会賞受賞者，地質学会長
日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞：各専門部会長
2）推薦委員会による推薦は，主要な研究業績に関する説明に留め，実務的な書類（業績や履歴書など）作成は被推薦者本人が行う．日本地質学会国際賞にあっては対応責任者が行う．

附則
1．上記1．選考検討委員会および2．推薦委員会の申し合わせは，2008年度の各賞選考過程より施行する．

2008年度日本地質学会各賞候補者募集について

日本地質学会は毎年その事業のひとつとして，研究の援助・奨励および研究業績の表彰を行っています（会則第３条）．具体的には，運営細則第11条および各賞選考に関する規約（本号別途掲載）に，表彰の種別や選考の手続きを定めています．これらにしたがい，下記の賞の自薦,他薦による候補者を募集いたします．ご応募いただいた候補者を，各賞選考委員会（委員は評議員の互選と職責により選出）が選考し，４月の評議員会で受賞者を決定します．

日本地質学会功労賞・日本地質学会表彰以外は，会員（正会員・名誉会員）であればどなたでも推薦できます．論文賞・研究奨励賞・小藤賞の対象論文リストについては，地質学会のホームページ（http://www.geosociety.jp/）をご覧いただくか，または，地質学会事務局までお問い合わせください．

下記の応募要項をご参照の上，各賞選考委員会（学会事務局）あてご応募下さい．期日厳守にて，たくさんのご応募をお待ちしております．なお，ご応募いただいた場合には，必ず受け取りのお返事をお出ししますのでご確認ください．

応募の締め切りは各賞とも，2007年12月25日（火）必着です．

所定の様式による，とあるものは事務局にご請求下さい．

送付先：
郵送，e-mail送信いずれも可，なるべく電子ファイルでの提出をお願いします．
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6Ｆ
日本地質学会各賞選考委員会
TEL：03-5823-1150，e-mail：main@geosociety.jp

記

１．日本地質学会賞
授賞対象：地質学に関する優秀な業績をおさめた本会正会員もしくは名誉会員，またはこれらの会員を代表とするグループ．
応募方法：会員および理事会による推薦（自薦も可），所定の様式による。

２．日本地質学会論文賞
授賞対象：
１）2004年10月から2007年９月までの過去３年間に「地質学雑誌」に発表された優れた論文
２）2004年４号から2007年３号（９月）までの過去３年間に「Island Arc」に発表された筆頭著者が本会会員による優れた論文
応募方法：推薦理由書添付（400字程度）．正会員・名誉会員であればどなたでも推薦ができます．

３．日本地質学会研究奨励賞
授賞対象：2005年10月から2007年９月までの過去２年間に地質学雑誌およびIsland Arcに優れた論文を発表した，2007年９月末日で満35才未満の正会員あるいは準会員．筆頭著者であれば共著でもよい．
応募方法：推薦理由書添付（400字程度）．正会員・名誉会員であればどなたでも推薦ができます．

４．日本地質学会小藤賞
授賞対象：2006年10月から2007年９月までの間に地質学雑誌に発表された短報で，重要な発見または独創的な発想を含むもの．
応募方法：推薦理由書（400字程度）．正会員・名誉会員であればどなたでも推薦ができます．

５．日本地質学会功労賞
授賞対象：長年にわたり地質学の発展に貢献のあった本会会員もしくは非会員．またはこれらを代表するグループ．
応募方法：評議員，支部，または理事会が推薦．所定の様式による．

６．日本地質学会表彰
授賞対象：地質学の教育活動，普及・出版活動，新発見および露頭保全，あるいは新しい機器やシステム等の開発等を通して地質学界に貢献のあった非会員の個人，団体および法人．
応募方法：評議員，支部，または理事会が推薦．所定の様式による．

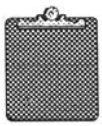
７．日本地質学会国際賞
授賞対象：地質学に関する画期的な貢献があり，加えて日本列島周辺域の研究や日本の地質研究者との共同研究などを通じた日本の地質学の発展に関する顕著な功績があった非会員
応募方法：会員，支部，または理事会が推薦．所定の様式による．

８．日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞
授賞対象：地質学に関して優れた業績を上げた，2007年９月末日で満37歳以下の会員
（研究テーマによって小澤儀明賞・柵山雅則賞のいずれかを授与）
応募方法：会員および理事会による推薦（自薦も可），所定の様式による。

注）日本地質学会賞・研究奨励賞・小澤儀明賞・柵山雅則賞の受賞候補者は，過去においてそれぞれの賞を受けていないことが要件となります．

2007年10月10日

日本地質学会各賞選考委員会
委員長　安藤寿男
委員　酒井治孝，井内美郎，足立勝治，井龍康文，堀　利栄，高木秀雄，中川光弘，卜部厚志，北里　洋，狩野謙一，宮下純夫，久田健一郎
石渡　明，Simon WALLIS



ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

日本土地環境学会2007年シンポジウム

土壌汚染対策の現状と今後　―法政策と不動産鑑定の視点から―

日本土地環境学会は，土壌汚染問題について学会設立当初から検討をしてきた先駆け的存在である．土壌汚染対策法（土対法）施行から５年目を迎えるにあたり，その運用の現場からの報告を通して，現状の問題点や今後の課題について検討する．国民の健康保護の観点から始まった土対法であるが，状況は健康保護の他，土地取引においても多大なる影響を及ぼしている．特に現在，国で検討されている土対法の見直しについて，また，土対法に該当しない土壌汚染地の不動産鑑定評価における扱いについての現状と今後の見通しについて検討する．

日時　**2007年11月10日（土）**15：00～17：00
会場　明治大学和泉校舎　和泉メディア棟３階　M306（東京都杉並区永福1-9-1）
京王線・都営新宿線（京王線直通）・井の頭線　明大前駅下車　徒歩５分
シンポジウム参加費：3000円
懇親会費：4000円
主催：日本土地環境学会
協賛：日本地質学会ほか
後援：環境省ほか（予定）

＜プログラム＞
15：00～17：00
シンポジウム「土壌汚染対策の現状と今後―法政策と不動産鑑定の視点から―」
コーディネーター　柳　憲一郎
（明治大学法科大学院 法務研究科　教授）
報告/パネリスト
（15：00～16：15：各15分報告）
○法政策の観点から
大塚　直
（早稲田大学大学院　法務研究科　教授）
○不動産鑑定の現場から
廣田裕二（不動産鑑定士・財団法人日本不動産研究所　環境プロジェクト室長）
○調査と対策の現場から
和田信彦
（技術士・株式会社アステック　技術顧問）
○不動産取引の現場から
島田裕康（独立行政法人都市再生機構　技術・コスト管理室　基盤チームリーダー）
○国の関与の現場から
佐藤宏昭（環境省　水・大気環境局　土壌環境課課長補佐）
パネルディスカッション（16：15～17：00）
申込先・問合せ先
日本土地環境学会事務局　本間　宛
〒101-8301　東京都千代田区神田駿河台1-1　14号館
明治大学法科大学院環境法センター内
FAX　03-3296-2777　E-mail　info@j-lei.jp
http://www.j-lei.jp
申込書にご記入の上，FAXまたはE-mailにてお申し込み下さい．（用紙は学会HPでも入手できます）

国際惑星地球年（IYPE）学生コンテスト

＜地球と共に生きる・想う・問う＞

国際惑星地球年日本では，「社会のための地球科学」を掲げる国際惑星地球年の10テーマに焦点をあてた創造的な作品を募集しています．作品は，エッセイ，俳句，絵，写真，コミックなど，あなたの得意な方法で表現してください．言語を使用する場合は英語とします．優秀な作品の作成者は，来年２月12日～13日の２日間にわたりユネスコ本部（パリ）で開催されるIYPE Global Launch Event（国際惑星地球年2008式典）に招待されます．

応募資格
日本在住の18才～22才の学生（国際惑星地球年2008式典に参加可能なこと，英語が理解できることが望ましい）．

応募方法
ウェブサイトから応募用紙および応募要項を入手して，応募要項にしたがって応募下さい．
http://www.gsj.jp/iype/do/out/student_app1.html

審査
IYPEガイドラインに基づき，審査委員会による厳正な審査を行います．

日程
締切：2007年11月15日（木）必着
発表：2007年12月７日（金）ウェブサイト上で

注１）10テーマは次の通りです．詳しくはウェブサイト（www.gsj.jp/iype/dl/filesen.html）から各テーマパンフレットをダウンロードして参考にしてください．
地下水―持続的利用をめざして
災害―リスクは最小に，関心は最大に
地球と健康―よりよい環境を作るために
気候―石に刻まれた歴史
資源―持続的利用めざして
巨大都市―より深く，より安全に
地球深部―地殻からマントル，そしてコアまで
海洋―時の深淵
土壌―地球の生きている肌
地球と生命―多様性のみなもと

問い合わせ先：
〒305-8567　つくば市東1-1-1　中央第７
産総研地質調査総合センター内
IYPE日本事務局
e-mail: iype-sec@gsj.jp
web site: http://www.gsj.jp/iype/

ウインター・サイエンスキャンプ ’07-’08

内容：最先端の研究成果や先進的な研究施設・実験装置等を有する大学（７会場），公的研究機関（２会場）が冬休みの３日間，高等学校・中等教育学校後期課程・高等専門学校（１～３学年）に在籍する生徒等を受け入れ，ライフサイエンス，情報通信，環境，ナノテクノロジー・材料，エネルギー，社会基盤，製造技術，（宇宙・海洋等の）フロンティア，農学，地球科学等の分野において，第一線で活躍する研究者・技術者等による実験・実習を主体とした科学技術体験合宿プログラムを実施します．

対象：高等学校，中等教育学校後期課程又は高等専門学校（１～３学年）等に在籍する生徒

開催日：平成19年12月24日～平成20年１月６日の期間中の２泊３日

会場：大学，公的研究機関（９会場）
［国立大学法人］北海道大学，北見工業大学，東北大学，山形大学，鳥取大学，愛媛大学［私立大学］神奈川工科大学［公的研究機関］【大学共同利用機関法人】高エネルギー加速器研究機構【独立行政法人】産業技術総合研究所（セルエンジニアリング研究部門）

定員：受け入れ会場ごとに10～20名（合計127名）

参加費：無料（会場までの交通費は参加者負担）

応募選考：募集要項の請求は事務局まで．
指定の「参加申込書」を事務局に送付．会場ごとに選考を行い参加者を決定します．

応募締切：2007年11月15日（木）必着

主催：独立行政法人　科学技術振興機構
サイエンスキャンプ事務局：
財団法人　日本科学技術振興財団
応募先・問合せ先：
サイエンスキャンプ事務局
財団法人日本科学技術振興財団

振興事業部内
〒102-0091
東京都千代田区北の丸公園２番１号
電話 03-3212-2454　FAX 03-3212-0014
E-mail : camp@jsf.or.jp

プログラム等詳細は，WEBサイト：http://spp.jst.go.jpをご参照下さい．

公募　教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

信州大学大学院テニュアトラック助教　公募

１．職名および人員　テニュアトラック助教１名
２．専門分野　地質学．専門分野のキーワード：フィールド地質学，山岳科学，地殻物質科学
３．応募資格・条件
（1）博士の学位を取得後10年以内の若手研究者/（2）英語による十分なコミュニケーション力を有すること/（3）外国籍の研究者の場合は，任期終了までに十分な日本語能力を獲得する意欲があること
４．着任時期：平成20年４月１日
５．採用後の条件
任期：2013年３月31日まで
給与：年俸制で約620万円を予定しています．
業務：本公募により採用された教員は，主として研究活動に従事しますが，若干の教育活動にも関わっていただきます．
研究費等：研究を支援するために2008年度は600万円程度，次年度以降は2011年度まで年間300万円程度の研究費支給を予定しています．ティーチングの経験を積むため，若干の教育活動が求められます．

＜テニュアトラックとは＞本公募により採用される教員には５年の任期が付けられます．この期間は，優れた研究者・教員への準備期間として位置づけられ，専門分野における研究，教育の経験を積みます．４年後にテニュア審査が行われ，合格後はテニュア教員（定年65歳）に採用されます．テニュア後の職位は原則として准教授です．

６．応募書類：
信州大学ファイバーナノテク国際若手研究者育成拠点のHP（http://www.wakate-shinshu.com/）にアクセスし，応募申請書の様式をダウンロードし，記入してください．（1）履歴書（写真添付）（ダウンロード）/（2）業績サマリー（ダウンロード）/（3）業績調書等（ダウンロード）：書式に従って作成してください．外国籍の応募者の場合は英文で作成しても構いません．/（4）主要論文（５編以内）の別刷りないしコピー

７．応募締切：**2007年12月10日（月）17時必着**

８．応募方法
上記（1）から（4）の提出書類を１つのPDFファイルにまとめ，下記提出先に電子メール＜wakate@shinshu-u.ac.jp＞で提出してください．

９．問い合わせ先
若手研究者支援室
e-mail : wakate@shinshu-u.ac.jp
電話：0268-21-5597（直通）
FAX：0268-21-5318

大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻　助教公募

１．職種・人員：大阪大学大学院理学研究科助教１名
２．所属：宇宙地球科学専攻　松田（惑星科学）グループ
３．専門分野：同位体惑星科学
４．着任時期：平成20年４月１日予定
５．応募資格：博士の学位を有するか，平成19年度中に取得見込みの者
６．提出書類：（1）履歴書　（2）研究業績リスト　原著論文，総説，報告書，著書に区分　（3）主要論文の別刷（コピー可），３篇以内（研究業績リストに○印を付して下さい）　（4）これまでの研究内容（Ａ４用紙１枚）　（5）着任後の研究・教育に関する抱負（Ａ４用紙１枚）　（6）応募者について照会可能な方２名の氏名・所属と連絡先
７．公募締切：**平成19年12月17日（月）必着**
８．書類送付先：
〒560-0043　豊中市待兼山町１－１
大阪大学大学院理学研究科
宇宙地球科学専攻　専攻長　中嶋悟
電話　06-6850-5799　FAX　06-6850-5480
e-mail：satoru@ess.sci.osaka-u.ac.jp

９．問い合わせ先：
大阪大学大学院理学研究科
宇宙地球科学専攻　松田准一
電話　06-6850-5495　FAX　06-6850-5541
e-mail：matsuda@ess.sci.osaka-u.ac.jp

詳しくは，当専攻のホームページ：http://www.ess.sci.osaka-u.ac.jp/をご参照下さい．

公募結果

千葉大学理学部地球科学科（現：大学院地学研究科地球科学コース）助教授（４月より准教授）公募
成瀬　元氏（京都大学理学研究科地球惑星科学専攻）

平成20年度東京大学海洋研究所共同利用研究公募

応募資格　国・公・私立大学及び公的研究機関で，海洋科学に関する研究を行う研究者並びにこれに準ずる者．

共同利用研究の種別
（1）外来研究員：所外の研究者が本所に滞在して研究を行う便宜を提供します
（2）研究集会：1-2日間のシンポジウム．海洋研究所での開催を原則とします
（3）国際沿岸海洋研究センター：
①外来研究員：センターに滞在して研究を行う便宜を提供します
②研究集会：少人数の研究者による討論集会等です

申込期限　平成19年11月30日（金）必着

※公募要領および各申込書類は東京大学海洋研究所HP＜http://www.ori.u-tokyo.ac.jp＞に掲載されています

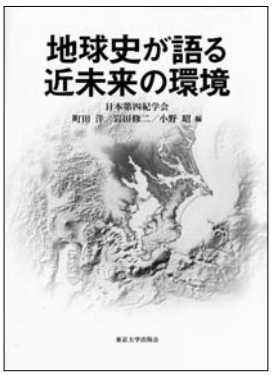
問い合わせ先
○東京大学海洋研究所総務課研究協力係
〒164-8639　東京都中野区南台1-15-1
ダイヤルイン　03（5351）6354，6355，6370，6373
FAX 03（5351）6836

○国際沿岸海洋研究センター
〒028-1102
岩手県上閉伊郡大槌町赤浜2-106-1
TEL 0193（42）5611（代）
FAX 0193（42）3715

紹　介

地球史が語る近未来の環境

日本第四紀学会・町田　洋・岩田修二・小野　昭　編



東京大学出版会，2007年６月20日発行，
四六判・並製カバー装・縦組，274ページ，
定価2400円＋税　ISBN978-4-13-063705-3

今年の猛暑記録の更新や近年の台風の異常発生などに象徴されるように，地球の気候システムの激変が懸念され，近未来の地球環境のありかたに関心が高まっている．この背景には巨大化する人類活動に起因する地球環境問題の深刻化がある．環境変化への対策を講じる基礎として，近未来の環境変化を予測する必要があるが，近未来環境の予測はたやすいことではない．予測方法の困難さに加え，そもそも人間活動の影響の幅も無視できないからである．本書はしがきにも述べられているように，「自然そのものの働きに加えて，人類の活動によって加速的に変化している地球環境の現在を理解し，将来を予測するには，最近の地球史を総合的に考察する視点が不可欠である」．このような課題に関しては，すでに日本第四紀学会編『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』（1987，古今書院）が出版されており，本書はその「後継書」として位置づけられる．

日本学術会議第四紀学専門委員会と日本第四紀学会は，2004年11月28日に，シンポジウム「私たちの明日を考える－地球史が語る近未来の環境」を開催した．これを契機に第四紀学の意義と重要性を広く社会に知らせるために取り組まれたのが本書の出版である．

本書は，過去数十年～数万年の間に我々を取り巻く環境は，どのように，またなぜ変わったかを調べるという観点から，現在を理解し近未来の展望を試みるという趣旨で企画・編集された．そして研究の現状をふまえて，次の３点に焦点を当てるように心がけられている．第１は日本列島だけでなくグローバルな現象の説明と課題を明らかにすること，第２は現在の人間の活動が地球環境に与えているインパクトの激しさがどのようなものであるかを具体例で明らかにしたこと，第３に歴史に学んで今を見直すという観点を貫いていることである．

その内容と構成は，以下の通りである．

第１部　地球環境変動と第四紀研究
1　第四紀研究から地球環境を考える　町田　洋
第２部　気候変動と海面変動
2　地球温暖化と海面上昇　横山祐典
3　アジアの大規模デルタ　斎藤文紀
4　気候の近未来予測　住　明正
第３部　植物―動物―人類の関わり
5　東アジアの植物の多様性と人類活動　百原　新
6　哺乳類の絶滅史から現在と未来を考える　河村善也
7　持続的資源利用の人類史　佐藤宏之
第４部　人為改変と自然災害，自然保護
8　ため池や堀の堆積物からたどる大気環境の変遷　吉川周作
9　土地改変と地表環境マネジメント　田村俊和
10　国立公園上高地の未来像　岩田修二

「災い転じて・・・」ということになるのかも知れないが，地球環境問題の深刻化が第四紀学の進展に果たした意味は大きい．本書には一昔前の第四紀学では教えられなかった最近の研究の成果がわかりやすく紹介されている．たとえば，現在と類似の間氷期を過去に求めるとするならば，ステージ5e以上にステージ11が注目されていること（第１部），第四紀に顕著な特徴の一つとされる氷河性海水面変動について，グレイシオーハイドロアイソスタシーにもとづいた海水量変動の議論がなされていること，沿岸域のデルタ堆積システムの発達が海水準変動と関係づけて議論されていること，気候モデルに関して人為影響を考慮することで過去約130年間の気温の変化を説明できることなどが紹介されている（第２部）．植物―動物―人類の関わり（第３部）では，植生の変動が単なる植生帯の移動（シフト）ではなく，レフュージア（植物の地理分布が環境変化によって制限されたときの避難場所）との関係で起こることを述べている．また，第四紀末の動物の大量絶滅が人類活動との関係で議論されている．この大量絶滅は第四紀に２回あり，後期更新世の絶滅は「電撃戦モデル」として人類の関与を認める説とそうでないとする説もある．一方，現在も進行中の完新世における大量絶滅については人類が関与していることを述べ，古生物学的知見が生物多様性の保護・保全のために活用できることを示している．人類史に関しては，最近新しい発見が続いている人類の起源に関する情報が人類誕生のモデルを変えつつあることを示し，猿人から現代人に至る文化の移行，さらに日本列島における持続的資源利用の民俗知の歴史について述べている．人為的改変と自然災害，自然保護（第４部）では，ため池や堀の堆積物から明らかにされた最近約200年間の大気（！）環境の変遷が示されている．また，環境保全に対する科学的視点の重要性について，上高地の環境資源保全に関する自然史研究会メンバーと行政機関などとのやりとりを例に示されている．

すでに第四紀に関する研究を行っている人たちにとってはどこかで聞いた話かも知れないが，それらの内容が未だ第四紀学に接したことのない人たちにもわかりやすく手際よく紹介されている．ここで紹介された内容は，これから第四紀の勉強を始めようと言う人たちにとっては新鮮な研究テーマを示唆するものであり，一読をお勧めする次第である．

（井内美郎）

ジオロジストのための

法律メモ

著作権譲渡等同意書の解説（23）

弁護士　高木宏行

他の人が著作権等を有している著作物を利用するには，制限規定によって利用できる場合のほかに，利用許諾を受ける方法と著作権を譲り受ける方法とがあります．

学会の著作権譲渡同意書では，後者の方法を採用していますが，学会の場合は，自ら著作物を利用するだけでなく管理上の容易さから譲渡の方法が採用されています．

今回は，もう一つの方法である利用許諾を受ける方法について見てみることにします．著作権法63条１項は「著作権者は，他人に対し，その著作物の利用を許諾することができる」と定めて，この方法を明らかにしています．

例えば，著作物である論文の著作権者から，複製することの許諾を受けた者は，その著作物のコピーを作ることができます．

許諾をする場合には，これまで見てきた著作権の各支分権を別々の相手に利用許諾することもできますし，例えば複製の部数，利用態様，期間や地域を限定して利用許諾することも可能です．むしろ許諾をする場合にはそのような条件を付けることが普通です．

また，著作権者が，複製権をAとBに同時に利用許諾することも可能です．また，Aのみに利用許諾する場合に，Aとの間で独占的に利用させることを許諾するという合意をすることもできます．AとBの両方に利用させる場合には，それぞれに独占的にでない利用許諾を与えることになります．

Aに独占的利用許諾をした後に，Bに対しても利用を許諾したときには，Aに対して債務不履行責任を負うことになります．Aは独占的利用許諾を得ていますが，Bに対して差止を求めることはできないと解されています．

著作権者がする許諾（利用許諾契約）については，必ずしも契約書を作る必要はなく，口頭でも有効に成立します．しかし，利用許諾にあたってはその対価を定めることも少なくありませんし，どのような内容の許諾であったのかが後で紛争にならないよう書面による契約をするべきです．

Aが利用許諾を受けた範囲を超えて著作物を利用した場合には，契約違反というだけでなく，著作権侵害となる可能性があります．契約違反にとどまれば損害賠償責任を負担するだけですが，著作権違反の場合には，刑事責任が生じる可能性がある点で異なってきます．著作権侵害となるかどうかは，契約の内容と違反の内容をみて，違反が著作権の本質的な内容に触れるかどうかで判断します（作花文雄『詳説著作権法』（第３版）414頁，ぎょうせい，2004）．

この点は，著作者人格権についても同様で，複製の許諾を得た場合に，著作物の改変をしたときは，同一性保持権侵害となります．改変することが必要なときは，別途同意を得ることが必要です．

弁護士　高木宏行
（キーストーン法律事務所）
日本地質学会顧問

第二東京弁護士会所属
現在　東京弁護士会・第二東京弁護士会合同図書館嘱託，（財）日弁連交通事故相談センター東京支部　等委員

CALENDAR

2007.11～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会行事．

2007年

11月　November

○第４回“Gondwana to Asia”国際シンポジウム・国際ゴンドワナ研究連合2006年学術大会
11月８日（木）～10日（土）
会場：九州大学・西新プラザ
http://www.scs.kyushu-u.ac.jp/earth/2007gond-asia/

○日本土地環境学会2007年シンポジウム
『土壌汚染対策の現状と今後－法政策と不動産鑑定の視点から－』
11月10日（土）15：00～17：00
会場：明治大学和泉校舎（杉並区永福1-9-1）
シンポジウム参加費：3000円のところ，地質学会会員は，1000円となります．
http://www.j-lei.jp

○ロンドン地質学会200年記念式典
11月12日（月）～13日（火）
会場：The Geological Society of London, Burlington House, Piccadelly, London
巡検：11月９日～11日：the　Isle of Wight.
URL：www/geolsoc.org.uk/bicentenary

○日本火山学会2007年度秋季大会
11月18日（日）
会場：島原市
http://www.sevo.kyushu-u.ac.jp/kazan2007/

○日本第四紀学会50周年記念事業国際シンポジウム
アジア・西太平洋の第四紀：環境変化と人類
11月19日（月）～22日（木）
場所：産業技術総合研究所共用講堂
http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/index.html

○第５回火山都市国際会議島原大会
11月19日（月）～23日（金）
会場：雲仙岳災害記念館・島原復興アリーナ
http://www.citiesonvolcanoes5.com/jp/

★討論「日本海沿岸褶曲・断層帯の形成・成長と地震活動」
11月24日（土）プレ巡検「新潟堆積盆地の標準層序と活断層」
11月25日（日）討論会（会場：新潟大学五十嵐キャンパス）
主催：日本地質学会構造地質部会
問い合わせ先：高木秀雄（hideo@waseda.jp）
http://www.geosociety.jp

2008年

1月　January

○第３回国際テチスシンポジウム
（Third International Conference on the Geology of the Tethys
１月８日（火）～11日（金）
会場：アスワン，South Valley University
発表要旨締切　2007年11月30日（金）

○第17回環境地質学シンポジウム
１月10日（木）～11日（金）
場所：日本大学文理学部
主催：地質汚染－医療地質－社会地質学会
http://www.jspmug.org/envgeo_sympo/17th_sympo.html

8月　August

○6th International Conference on Asian Marine Geology
－Asian Waters explored by advanced research of 21st Century－
８月29日（金）～９月１日（月）
場所：高知市
http://ofgs.ori.u-tokyo.ac.jp/ICAMG6/

小学校における地学教育の深化をもとめて
阿部國廣氏の公開授業報告

矢島道子

さる９月27日，川崎市立西有馬小学校で，阿部國廣教諭の小学校５年「流れる川の水のはたらき」の公開授業がありました．この公開授業は昨年度文部科学省へ持参した提言『すべての児童・生徒が地球人としての科学リテラシーを身につけるために―義務教育段階での「理科」のあり方に関して―』を受けて，日本学術会議地球惑星科学委員会・社会貢献分科会および，日本地球惑星科学連合の教育問題検討委員会・教育課程小委員会が，義務教育における地学教育の充実が重要課題であり，小学校での地学教育の実情について見識を深めることを目的に企画したものです．当日は14名の参加がありました．

・公開授業の位置づけ

阿部國廣氏が教職生活36年で行き着いたところは

「私たちはどこから生まれ，今どこにいて，これからどこへ行こうとしているのか」

という命題に答えることだといいます．

「生命の星惑星地球に生きる私たちは地球進化の過程の中で，生まれ育ってきた生命体の一員として今ここに生存しています．日本地質学会は私にとって理科教育を進めていくための支えとなってきました．日本地球惑星科学連合は日本地質学会を足がかりに私の求めをより深く見つめる機会を与えてくださいました．地球惑星の，変動帯の最前線に位置する日本に生活する私たちにとって，地学教育（地球惑星科学教育）は国民の素養に位置づけられなくてはなりません．今まで，これからも皆様と地学教育を共有していただければと思っています．私の小学校で子どもたちとかかわりながら，理科教育を進めてきたひとつの結節点として授業を公開します．ご批判，ご検討をいただき，地球人としての科学リテラシーを備えた日本人として，理科教育，地球惑星科学の教育が国民素養の教育として定着・振興していくための一助となればと思い学校職員の協力の下に公開授業（９月27日〔木〕）を行います．」

と阿部氏は授業の位置づけを述べられました．

授業単元は小学校５年の「川の水のはたらき」～平野は川が作り出す～で，小学校４年の〔「水のたび」（雲と天気）・・・地球における水循環〕の学習を受けての流水のはたらきを扱っています．もちろん，その前には同じく小学校4年の「水のすがた」（水の三態変化），もっと前には小学校3年の「太陽と光とかげ」や社会科３年の「方位の学習」，そして小学校5年の「地図の見方」という授業をふまえてきています．「雨水は高い山を駆け巡り，山地の土砂，岩石を削り取り，低地へと運び，そこに残して平らな地形を作り出す．川は流れを変え，平野を生み出すことを学習する」単元です．この学習を終え，どうして山はなくならないのかという課題を生み出せたならばよいと阿部氏は考えています．この課題が中学校へいってからの地殻の変動の学習へと接続していったらと考えているのです．多摩川を教材にして授業展開をしていきたいと考えています．

阿部國廣氏は川崎市立西有馬小学校で理科専科の教諭です．主に小学校３・４年を担当していますが，小学校５年の「流れる水の働き」の単元は特別に他の教諭の持ち時間を借りて授業しています．小学校３・４年ですでに理科の授業をしていますので，生徒のほうが阿部氏の授業のやり方を知悉しています．小学校５年では理科の授業は週３時間あり，公開授業は２時間続きの授業でした．「流れる水の働き」は通常ですと７時間くらいで終了するのですが，阿部氏は15時間をついやしています．

実際の授業

授業は午前の３・４時間目，90分連続です．阿部氏はまず黒いカーテンをひいて理科室を薄暗くしました．生徒は公開授業というので，少し緊張しています．まず，今まで勉強してきた多摩川の上流から下流の様子をOHPで復習します．今日は台風のときの川の様子を勉強しようと呼びかけます．台風のときの様子を撮影した写真をOHPで見せます．そのときの川の中の様子を生徒に想像させ，ノートに書かせます．絵を描く生徒も出てきます．時間は十分に与えます．生徒の何気ない独り言を阿部氏は上手にキャッチして，ぐいぐいと結論のほうへ導いていきます．大水の痕が残っている崖のスライド写真を見せます．川原にはずいぶん大きな石が残っています．突然，黒板いっぱいに大きな岩が不気味に現れました．教室の後ろにOHPを設置し，岩石標本の影を投射したのです．生徒は度肝を抜かれています．台風・大水の時には川の水の中には多くの石が舞い上がり，岸や底を削脱している様子を生徒たちは想像できるようになります．体を使って表現する生徒も出てきます．削脱が長いこと続くとどうなるだろうか，阿部氏は準備室から茶筒を持ち出しました．２年前に石と水を入れ，封をして毎日ゆすっていたのだそうです．２年たったらどうなるでしょうか．茶筒を開封しようとします．生徒たちはいっせいに阿部氏の下に集まります．ようやくこじ開けるとドロドロの水になっています．歓声があがります．最後は屋外に作られた風化堆積実験装置を見に行きます（写真）．水の勢いが強くなって，砂の山が崩れていくと「あ，山崩れだ」「あ，分水嶺ができている」という声が飛びます．終了時間になりました．「ああ，面白かった」と感想を述べて生徒は給食に戻りました．

反省会から

午後は阿部氏，私たち見学者および，西有馬小学校の同僚が集まって，反省会を行いました．見学者のほうは阿部氏の授業に感動したままです．感動を呼んだ授業の種明かしが行われました．黒いカーテンも工夫のひとつです．生徒たちはノートをよく取り，ものを考え，発言しています．これだけ生き生きとした授業を私も久しぶりに見ました．小学校の同僚からは理科の授業は，なかなか難しいこと，特に「水の流れのはたらき」は難しいという声が出ました．学問の会としての学会には，授業でわからないことに答えられるもの，あるいは，一緒に教えやすい教科書をつくっていくことなどの要望が述べられました．こうした授業公開が全国でしばしば行われることが何よりも必要なことであろうと反省会を終了しました．

阿部氏は来年の連合大会でこの公開授業について報告したいと考えています．日本地球惑星科学連合は今回の学習指導要領改訂に向けて文部科学省へ2004年から2007年９月までに６本の意見書，要望書，提言を行ってきました．（日本地球惑星科学連合HP地学教育を開いてください．）今回の改訂学習指導要領（素案）には私たちの主張がかなりの部分，反映されています．10月には中間のまとめが発表されます．ここに更なる意見を反映していくことが求められています．地学存続の危機といわれている昨今を乗り切るためにも多くの会員の声を文科省へ集中してください．

TOPIC
タイ国恐竜博物館Sirindhorn Museumを訪れて

堀内　悠（筑波大学生命環境科学研究科D3）・**長谷川　精**（東京大学大学院理学系研究科D2）・**原　英俊**（産業技術総合研究所地質情報研究部門）・**久田健一郎**（筑波大学生命環境科学研究科）

この度，タイ国のカラシン（Kalasin）にある，今年11月に開館予定の東南アジアでも最大規模となる恐竜博物館Sirindhorn Museumを見学することができたので，ここにその様子を紹介する（タイトルバックの写真は，館外の様子）．

1．はじめに

この博物館は，タイ国東北部（イサーン）の中心部にあるカラシンより約30km北の，Sahat Sakhanという街に位置する．タイ国の鉱物資源省（Department of Mineral Resources）により建設されたこの博物館は，以前より存在した小さな展示施設をリニューアルしたものである．タイ東北部では，多くの恐竜化石の報告がなされており，この施設ではそれらの化石の保存と管理，研究，一般への公開が行われる．東南アジアで最多の恐竜骨格を所蔵しており，来館者数もタイの恐竜博物館としては最大，アジアでもトップクラスの規模になると予想される．

右から写真１　館内の様子．写真２　発掘サイトの様子．写真３　ラボの様子

この博物館の裏手には，Phu Kum Khaoと呼ばれる丘陵があり，恐竜化石を豊富に産出するKhorat層群Sao Khua層が分布している．Sao Khua層は，前期白亜紀の地層であり，1994年に道路工事の際に僧侶によって恐竜化石の一部が偶然発見され，その後２年間以上にわたり発掘が進められた．このサイトからは*Phuwiangosaurus sirindhornae*を含む少なくとも６個体，600を超える恐竜の骨化石が発掘されており，タイ国でも最も重要な発掘サイトの一つとなっている．

2．展示内容

この博物館では，タイ国内で発掘・記載された８種の恐竜骨格標本を中心に配置しており，それらの恐竜の生態や生息環境についての展示や解説なども充実している（写真１）．また，それらの標本がタイのどの地域・層準で，どの部分の骨格が発見されているのかが詳しく記されている．恐竜化石の他にも，カラシンで豊富に産出する中生代の３種の魚化石などが多数展示されており，いずれも新種で保存状態がよく，貴重な資料である．また，一般地質学や地史を扱った展示も充実しており，来館者は生物の進化過程をたどるコースで順路を進み，標本やジオラマ，映像，実際に動かしてみることのできる装置など工夫がなされており，子供や地質学の知識を持たない人にも解かりやすく，興味をひくことだろう．また，解説パネルにはタイ語だけでなく英語表記もなされており，外国人にもわかりやすいよう工夫されている．このような展示は来館者の学習意欲を引き出し，より多くの人に地質学を浸透させることができるという点で価値の高いものである．

博物館には発掘サイトをそのまま保存・再現した別館の展示施設（写真２）もあり，発掘中の恐竜骨格が再現されたエリアの周りを歩いて上から観察できるようになっている．発掘前の地表面の位置もわかるようになっており，来館者はいろいろな角度から視覚的に発掘の状況を理解することができる．周囲にパネルなどで層序や発掘状況の説明，復元される恐竜の想像図などが解説されており，ここでもいろいろな情報が得られる．

さらに，博物館屋内には展示サイドからもガラス越しに見えるようになっている広いラボがあり，机の上や床一面に整理・研究中の骨格標本や魚化石標本が並べられていた（写真３）．奥の倉庫には未整理の標本が入った鍵の掛かった棚も多数並んでいた．これらの莫大な数の標本は大変貴重なもので，通路の扉にも鍵がかけられ，厳重に管理されている．廊下の棚には作成されたレプリカ標本も多数並べられており，通用口には恐竜の足跡化石も岩石ごと保管されていた．

3．おわりに

筆者の一人堀内は，この博物館を見学するまでは，タイ国でこれほどたくさんの恐竜化石が発掘されているという事実を知らなかった．今回このような見学の機会にめぐまれ，初めて見るその莫大な標本の数におどろかされた．旅行者にとって，バンコクから離れていることもあり，注目されにくい場所であるが，タイ国に旅行される方は，ぜひこの博物館に足を運んでいただきたい．そしてより多くの人にタイ国にこのような恐竜化石産地があることを知って欲しいと思うSirindhorn Museumの最新のパンフレット（英語版）はhttp://staff.aist.go.jp/hara-hide/igcp516.htmlからダウンロードできるので，是非ご利用いただきたい．

なお，カラシンまでは，バンコクから飛行機でコーンケンへ約１時間の後，コーンケンよりカラシン行きのバスで約１時間．またはバンコクからカラシン行きのバスで約４～５時間程度．カラシンの中心部からSirindhorn MuseumのあるSahat Sakhanまではバスで30分程度である．

南海掘削研究集会　参加報告

宮川歩夢
（京都大学大学院工学研究科　M2）

2007年８月８日，東京大学海洋研究所講堂にて開催された「東京大学海洋研究所共同利用研究集会：南海トラフ巨大地震発生帯の掘削科学（IODP）」に参加しました．講堂内は参加者で埋め尽くされ，折りたたみ椅子まで追加で設置されていました．午前の部，午後の部前半，午後の部後半の３パートで，計16の発表がありました．

午前の部ではこれまでの海洋掘削科学の歴史と，その中で南海トラフ地震発生帯掘削計画（NanTroSEIZE）の目指すものを皮切りに，NanTroSEIZEのターゲットとするエリアでの最近の研究成果の発表と，今後掘削を計画する関東アスペリティーに関する発表がされました．午後の部前半では，付加体の形状に関して詳細な三次元地震波探査や変形シミュレーションによる研究成果が発表さました．続いて今年の９月から掘削船“ちきゅう”による掘削が開始されるNanTroSEIZE Stage-1の概要と，続いて来年計画されているNanTroSEIZE Stage-2の計画概要についての発表がされました．午後の部後半では，これまでの掘削科学の成果として，台湾チェルンブ断層における研究成果の発表と，今後南海トラフにおける研究に利用される予定の試験・計測に関する発表がされました．最後に南海付加体の発達史として，これまでの研究から明らかになってきた分岐断層（Splay Fault）の起源についての発表がされました．

南海トラフ巨大地震発生帯の掘削科学というテーマで開催された１日足らずの研究集会でしたが，内容は南海トラフに限らず，台湾チェルンブ断層・関東アスペリティーといった，これまでの掘削科学の成果や今後期待される成果にも及び，地質学的立場のみならず，地震学までとりこんだ幅広いものでした．テーマが幅広いものでしたが，個々の発表内容は充実しており，そのことは各発表後には多くの質問・議論が飛び交い，予定されていた時間では足りなかったことからも明らかでした．私自身学部生のころから南海トラフ付加体の変形史についての研究を行っていたことと，NanTroSEIZE Sage-1への乗船参加が決まったこともあり，この研究集会に参加しました．これまでも地震に関する研究は多くされて来たのだと思いますが，しかしそれでもなお地震の被害はなくならず，地震の全てを解明するには至っていません．それは地震という現象が人類の手の届かない場所で，なおかつ地震発生自体は一瞬ですが，プロセス全体は人類が捉えるには余りに長い時間をかけて起きる現象だからだと考えています．今回の研究集会を通して，人類にとって到達が難しい地震という自然現象の解明に対して，さまざまなアプローチがなされていることを再確認するとともに，それらがよりいっそう密接に結びつくことによる将来への可能性を感じました．これまでの地震断層の研究やNanTroSEIZEは，地震発生帯に直接手を伸ばす試みであり，世界でも類を見ない高密度で設置された地震計観測網や，順次設置が行われている地下水等総合観測施設による計測などは，長い時間スケールのなかでのわずかな変化を捉え続ける試みです．今はまだそれらの試みが動きだしたばかりですが，それでも深部低周波地震といった新たな発見をもたらしています．今後の南海トラフ巨大地震発生帯の掘削においても新たな発見があるに違いありません．それらの成果が結びつくことによって，地震というフロンティアでの革命的な進歩が起きると確信しています．その場に立ち会えることの喜びと，その責任を感じた研究集会でした．

＜おまけ＞

夜の部の懇親会は海洋研究所の会議室で行われ，学生も多く参加した和気藹々としたものでした（写真）．今回の発表のこと，今後の研究のことなど，又はまったく関係の無い話をしていました．僕も含めて学生は食べ物に夢中だったように思います．小規模でしたがどこに誰がいるのか分かる手ごろなサイズだったかも知れません．懇親会終了後，こっそり海洋研究所の屋上から見た新宿の夜景はすばらしいものでした．

研究室紹介
九州大学大学院理学研究院附属地震火山観測研究センター

長井大輔（研究機関研究員）

研究室の概要

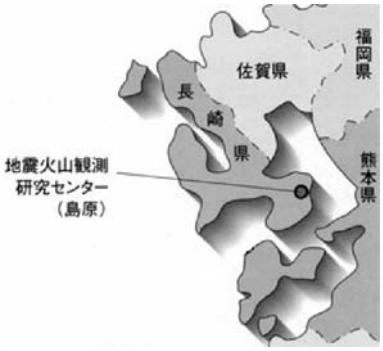
当センターは，2000年に設置された地震と火山の研究教育施設であり，全国の６大学に設置されている地震予知・火山噴火予知研究施設の九州地域の拠点として，活動しています．九州大学理学研究院の附属施設ですが，福岡市の本学とは遠く離れた長崎県島原市にあります．それは本センターの前身は，1990-95年の雲仙・普賢岳の噴火時に活躍した「島原地震火山観測所」であるからです．1962年に「島原火山温泉研究所」として開設され，何度か施設名を変更しながら現在に至っています．当センターは，九州広域に16ヵ所の微小地震観測点と雲仙火山地域に９ヵ所の火山観測点を持ち，衛星回線や専用通信回線を利用して常時観測を続けています．またGPSによる地殻変動の観測や，ペネトレータ地震計，孤島における衛星電話利用の地震計等，新しい観測手法や観測器の開発も行っています．

研究テーマ

当センターは，現在清水洋教授（センター長）以下，准教授２，助教１，技術職員２，研究員３名で構成されており，センターとしては小規模な施設です．また理学府地球惑星科学専攻の１講座として，博士課程２，修士課程１名の学生が在籍しています．これらメンバーは，地震・地殻変動・重力等の地球物理学的諸観測に基づいて，九州―琉球弧のテクトニクスの解明や，地震予知のための基礎研究を推進しています．2001年には，海底地震計が導入され，海域の研究にも力をいれています．また，地球物理学系の施設には珍しく，火山ガスや地下水等の地球化学的観測も実施して，火山活動度評価や火山噴火予知のための研究も行っています．特に雲仙火山については，溶岩ドームを形成する噴火のモデルケースとして，その噴火機構やマグマ供給システムを重点的に研究しており，地球物理学だけではなく火山地質学の研究員の受入や共同研究も積極的に行っています．1999-2004年に実施された雲仙火山科学掘削プロジェクトはその共同研究の集大成であり，活動終息直後の火道から

マグマを直接取り出すことに成功しました．

この他，当センターは毎年，地元の防災機関などに呼びかけ，平成新山への防災登山を行い，防災意識の啓発に努めています．また，子供たちを対象にした普賢岳登山や，キッチン火山教室の開催など，火山に関する地元の教育活動を後援しています．



2007年５月の防災登山

第５回火山都市国際会議

雲仙普賢岳の噴火災害終息から11年余．みごと復興を遂げた島原市で今年11月19～23日，アジアで初めての火山都市国際会議が開催されます．火山都市国際会議は，火山の近傍にある都市における防災対策や火山との共存テーマに２年ごとに開催されている国際会議です．九州大学もこの島原大会を強力に支援しており，当センターは主催の島原市や日本火山学会と共に，大会運営などの様々な準備を協力しています．大会は大きく三つのテーマから構成されています．一つは専門家たちが最新の火山研究を論じ合う学会としての性格．これには，雲仙火山科学掘削プロジェクトの成果はもちろん，地質学に関わる新しい研究成果も発表されます．二つ目が行政や住民，報道機関などを含めた災害軽減や避難誘導の方法や工夫など．三つ目が噴火災害の伝承や教訓を後世に残すための方法論を探る話し合いです．また，火山災害のリスク軽減に向けてのフォーラムやキッチン火山の実験や火山についての発表会など子供向けのフォーラムも同時に開催されます．大会前後には，雲仙火山やそれ以外の日本の火山，韓国のチェジュ島などの各地で巡検が実施される予定です．

センターHP : http://www.sevo.kyushu-u.ac.jp/
火山都市国際会議HP : http://www.citiesonvolcanoes5.com/

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の３名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

tksmcdr@hiroshima-u.ac.jp　高島千鶴（広島大）
iba@eps.s.u-tokyo.ac.jp　伊庭靖弘（東京大）
s059702@matsu.shimane-u.ac.jp　河野重範（島根大）

表紙紹介

地震が作り出した芸術：巨大乱堆積物

Artistic outcrop showing earthquake-induced chaotic sediment

山本由弦（産業技術総合研究所）・**坂口有人**（海洋研究開発機構）
Yuzuru Yamamoto（GSJ, AIST）and
Arito Sakaguchi（IFREE, JAMSTEC）

まるで絵に描いたように奇妙で，大規模な乱堆積物露頭．スケッチは，Yamamoto et al.（2007 in press）に加筆；赤矢印は地層の上位方向；アルファベットはブロック中で対比可能な鍵層．

上部鮮新統～更新統の千倉層群畑（はた）層中に発達するこの露頭は，2007年度初頭に房総半島南部の農業道路建設現場において発見された（Yamamoto et al., 2007 in press）．約200万年前の地震によって，砂層が液状化し，剪断強度を失ったそれらが古斜面上を移動したものと結論される（いわゆるliquefied sediment flow）．岩体の厚さは約20mにおよぶ（写真は全体の半分程度しか写っていない）．この露頭は，下底面・上端境界を含む岩体全体を運動方向に対してほぼ真横から観察できることから，地震が誘発した海底地すべりの内部構造を把握する上で非常に貴重な資料である．地震動によって液状化・地すべりを起こした岩体は，東西５km以上におよんでいることから，巨大な津波を引き起こした可能性もある．現在調査を進めている．

この露頭は，現在工事中のため立ち入りが規制されている．学術的に重要な露頭であることから，工事発注元である（独）緑資源機構によって保存が検討されている．

この露頭の詳細については，下記Island Arc誌16巻を参照されたい（Online Earlyで閲覧可能）．

文献

Yamamoto, Y. Ogawa, Y., Uchino, T., Muraoka, S., and Chiba, T., 2007, Large-scale chaotically mixed sedimentary body within the Late Pliocene to Pleistocene Chikura Group, Central Japan, *Island Arc*, **16**, 505-507, in press.

院生（研究生）の方へ「院生割引申請」について

2008年度（2008.4～2009.3）院生割引会費の受付中

2001年より会費の院生割引制度が設けられています．定収のない院生（研究生）については，本人の申請により院生割引会費が適用されます．つきましては，次年度（2008年度）の会費について申請受付を開始致しますので，該当される会員は下記の書式にて申請書を提出して下さい（郵送）．**会費請求書発行の都合もありますので，請求書発行前の受付〆切は11月22日（木）と致します．特に口座自動引落で会費を納入されている方は，この期日までに申請書をご提出下さい．なお，これまで（～2007年度）の会費についての申請受付は終了していますので，2008年度分の申請のみ適用となります．**

注意！！
毎年更新となりますので，今年度の割引を受けている方で，次年度も該当する方は改めて申請して下さい（来年３月まで院生（研究生）の方も申請すれば適用）．

送付先：〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6階
日本地質学会

2008年度日本地質学会会費院生割引申請書

（新規・継続）

日本地質学会　御中

私は，運営細則第12条第1項（1）に基づき，会費の院生割引を申請いたします．

年　　月　　日現在

会員番号：

会員氏名：

所属：　　大学　　研究科

専攻　　前期・後期　　年在学中

上記，本学の学生につき，定収のない院生（研究生）であることを証明いたします．

指導教官（等）

所属：

氏名：　　印

請求書発行前受付〆切
2007年11月22日（木）

追　悼

名誉会員　大久保雅弘先生を偲ぶ

大久保雅弘先生は平成19（2007）年６月10日に肺気腫により急逝された．享年84歳であった．

先生は大正12（1923）年５月１日に大阪市で實・たき夫妻の長男として生まれた．大学卒業前後の履歴は次のようであった．

昭和15（1940）年に旧制大阪府立今宮中学校第４学年を終了，
昭和18（1943）年９月旧制第四高等学校理科甲類卒業，
昭和21（1946）年９月旧制東京帝国大学理学部地質学科卒業，
昭和23（1948）年４月東京帝国大学大学院中退，
昭和23（1948）年６月東京大学理学部副手，
昭和24（1949）年６月東京大学理学部助手に任命される．

当時の日本地質学会事務局は東京大学理学部地質学科の中にあり，先生は事務局の手伝いもされていた．そして昭和32（1957）年４月から昭和54（1979）年３月まで日本地質学会評議員として，地質学会の運営などに貢献された．

先生の初期の研究は，卒業研究に続き北上山地南部の地質を中心に進められ，当時石炭紀層として一括されていた地質を細分して，ゴトランド・デボン系などを明らかにされた（昭和25（1950）年）．

先生の地質調査は，露頭において単層毎に層理と節理を区分し，その連続を確認して，化石とともに地質構造を考えることを基本にしていた．このような視点が，南部北上山地における石炭系およびゴトランド・デボン系などの区分を引き出し，その後の秩父山地における秩父古生層の研究に続いていた．

秩父山地における秩父古生層の研究は，明治の地質学導入以来古くから行われていたが，その地質構造は傾斜して立っていると考えられていた．しかし，現地での観察などでは，緩い褶曲構造をしているのではないかと考えられた．そのため，先生は，埼玉大学関係者と協同して秩父団体研究会を組織し，秩父山地の地質構造を検討・研究をすることになった．

当時，秩父山地における古生層の地質は一括されて考えられていたが，西南日本の延長として帯状構造が推定され，まず秩父帯・北帯の地質構造を検討することになり，秩父団体研究会として調査が進められた．

秩父団体研究会の事務局は埼玉大学に置き，調査・研究は昭和32（1957）年７月の石間地域の調査に始まっている．野外調査は春・夏・冬など長期の休みを利用して，グループによる現地宿泊の調査を主とし，日曜日毎に補足調査を行った．

昭和36（1961）年秩父帯北帯のまとめとして“神流川流域の古生層について”の報告をし，さらに，奥秩父地域（南帯）の調査を進めて行った．

先生による秩父団体研究会の活動は，昭和44（1969）年の「万場図幅」（地質調査所・五万分の一地質図）の刊行により終わっている．

また，先生は古生層中の石灰岩に形成された鍾乳洞の調査も進めている．昭和44（1969）年に秩父山地の武甲山近くにある石灰岩から，新たに発見された根古屋鍾乳洞の調査をした後，洞くつ団体研究会を組織し，日本各地の鍾乳洞についてグループ調査をした．その結果は昭和46（1971）年「洞くつの地学」として，洞くつ調査の視点などまとめられている．

先生は広く地質学的調査・研究などにも視点をもたれ，地学ハンドブック（共著；昭和39（1964）年刊行），実験地学ハンドブック（共著；昭和43（1968）年刊行）なども刊行している．

昭和46（1971）年４月，先生は島根大学文理学部に教授として赴任し，昭和53（1978）年６月文理学部の改組により理学部教授となり，昭和62（1989）年３月の定年まで16年間，島根大学における専門教育や大学の運営（理学部長・評議員など）に力をつくされた．

島根大学においては，新たに電子顕微鏡による化石の微細構造の検討など，SEM観察のための石灰脱灰の新手法など開発された．

また，山陰地域における地質の総括を進めるとともに，第三紀層の化石研究などもすすめ，多くの報文を出されている．

島根大学退官後は，東京に戻られるとともに，地質学の古典に注目され，平成17（2005）年にライエル著「地質学原理」の抄訳・出版をされている．

先生は，一男一女をもうけられ，家庭においても“よき父”であったことがうかがわれる．ご長男は，地質学を学び，石油会社に所属し，地質学会でも活躍されている．先生とは専門は違うが，立派にその志を継いでおられることは，喜ばしい限りである．

先生は研究姿勢を一貫して持ちつづけられた．あらためてその“現地・現物”の観察・検討から“地域の地質”を記録するという原点に思いをいたし，先生のご冥福をお祈り致します．

ご遺族は，奥様の大久保照子様と，長女の林直子様，長男の大久保進様です．

（堀口萬吉）

写真提供：朝日新聞

（金融機関・郵便局用）　　平成　　年　　月　　日

預金口座振替依頼書
自動払込利用申込書（収加）

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社 （旧株式会社三井ファイナンスサービス）	振替日	6日・23日（金融機関休業日の場合は翌営業日）

（フリガナ） 申込人名		申込人住所	〒 ☎

民間金融機関または郵便局のうちどちらか一つをご指定ください。

民間金融機関用 捨印

民間金融機関

金融機関コード		支店コード		預金種目（どちらかに○印）	口座番号（右詰めでご記入ください。）
銀行 信用金庫 組合		本店 支店 出張所		1. 普通 2. 当座	
（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。			金融機関お届け印	印

郵便局

（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、郵便局へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	郵便局お届け印	印

種目コード	契約種別コード	通帳記号	通帳番号（右詰めでご記入ください。）
166	30	1　　0 の	

払込先口座番号	00110－5－58830	払込先加入者名	SMBCファイナンスサービス株式会社

ご注意！ 金融機関へのお届け印ですか お通帳でご確認ください

〈収納企業使用欄〉

収納企業名	日本地質学会	料金等の種類	会費等
契約者番号	委託者コード 18476000	顧客コード 00000	

－預金口座振替規定－　※郵便局払いは除く。

1. 銀行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額（当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。）をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
3. この契約を解約するときは、私から銀行（金庫・組合）に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行（金庫・組合）はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
4. この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行（金庫・組合）の責めによる場合を除き、銀行（金庫・組合）には迷惑をかけません。

金融機関使用欄	（不備返却事由） 1. 預金（貯金）取引なし　3. 印鑑相違 2. 記載事項等相違 店名、預金種目、口座番号、通帳記号、通帳番号、口座名義 4. その他（　　）		
	備考		
	検印	印鑑照合	受付印

取扱日付局印

（民間金融機関・郵便局へのお願い）
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

（不備返却先）
SMBCファイナンスサービス㈱　〒108-6350
東京都港区三田3-5-27　☎03-5444-1533

◎書類の流れ　お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

裏面のりしろ①

キリトリ線

80円
切手
貼付

101-0032

東京都千代田区岩本町
二丁目八―一五　井桁ビル内

日本地質学会

御中

オリ線

住所

氏名

オリ線

裏面のりしろ③

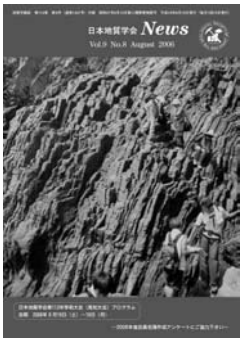
キリトリ線

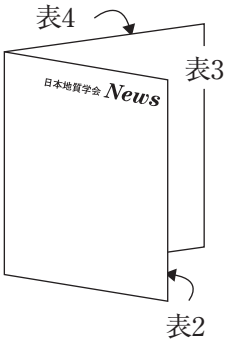
裏面のりしろ②

広告募集

News誌に広告を掲載しませんか.

News誌の掲載広告を募集しています．学会の直接取り扱いになりますので，カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます．ぜひご利用ください．





＜広告掲載価格表＞

	価格（モノクロ）	版下作成	カラー
表 4	60,000	＋10,000	＋10,000
表 2	50,000	＋10,000	－
表 3	40,000	＋10,000	－
普通	35,000	＋5,000	－

（単位：円）

申込・問い合わせ：日本地質学会事務局
電話　03-5823-1150　FAX　03-5823-1156
e-mail ; main@geosociety.jp

研究室のミニ工場

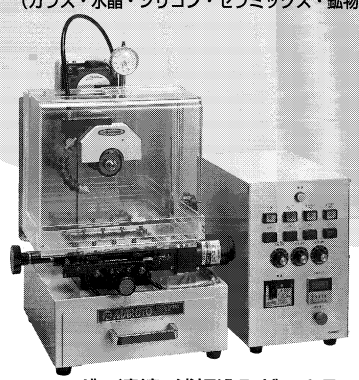
マルトーの
ラボ・ファクトリープラン3点セット

小型　精密　操作簡単　低価格

（ガラス・水晶・シリコン・セラミックス・鉱物・金属材料などの加工）

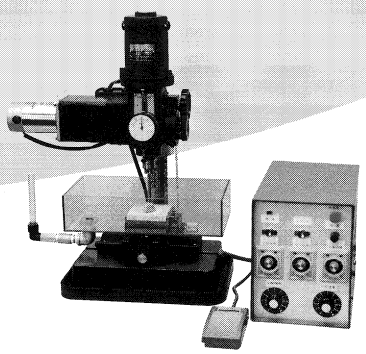
小さな機械だが役に立つ

磨く　切る　抜く



カッティング　連続・浅切込みができる
ステップカッター〔MC-170〕
●試料へのダメージが少ない
●最小切込み量 10μm／pass
●最大加工能力 H25×L40mm
●設置面積 W550×L450mm
●本体価格 178万円～

ポリッシング　精密鏡面研磨機
ドクターラップ〔ML-180〕
●組織検査用試料のラッピング・ポリシング
●アクセサリー豊富
●研磨試料サイズ φ1～φ100mm
●設置面積 W400×L400mm
●本体価格 45万円～



コアリング　微小径コア抜き取り機
ミニピッカー〔MG-5N〕
●主軸回転数 4000～12000r／min
●加工能力 φ1～φ6mm×30mm
●設置面積 W600×L400mm
●本体価格 125万円～

材料を切る・削る・磨くそして測る技術で奉仕する

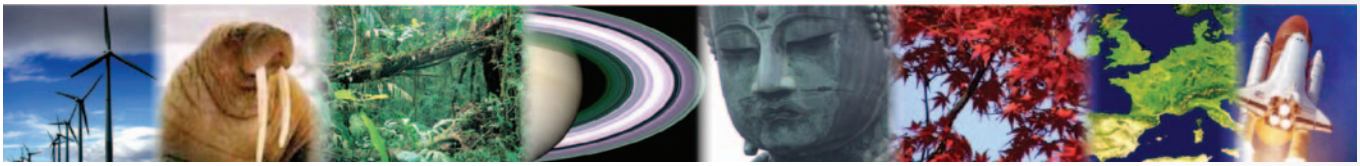
http://www.maruto.com

株式会社マルトー
本社／〒113-0034 東京都文京区湯島1-1-10 ☎東京(03)3251-0727(代表) FAX:東京(03)3251-2478
福岡連絡事務所／〒815-0033 福岡市南区大橋1-21-5 岩田ビル ☎福岡(092)512-2755 FAX:福岡(092)561-4288

Stallard Scientific Editing

your trusted partner in English-language excellence

science • technology • medicine • engineering • arts　　research papers • theses • books • abstracts



スタラード・サイエンティフィック英文校正のDr.アーロン・スタラードにお任せください．
貴方の地球科学の学術論文の英語をネイティブレベルの完璧な英語に英文校正します．

Dr.アーロン・スタラードの略歴：

- 1999年，ジェームスクック大学（オーストラリア）において博士号（地球科学）取得．
- 2000～2001年，日本学術振興会外国人特別研究員として静岡大学理学部に滞在．
- 2002～2005年，カンタベリー大学（ニュージーランド）FRST特別研究員．
- 2006年，科学分野にて330編以上の英文校正実績．
- 過去６年間に国際誌10編の原著論文．
- 固体地球科学，地震学，物理探査（リモートセンシング），古生物学，生態学，気象学，森林学，気候変動学，海洋学，環境モデリング等，地球科学と環境科学の幅広い分野での英文校正の実績．

スタラード・サイエンティフィック英文校正について．

スタラード・サイエンティフィック英文校正は，世界各国の英語を外国語とする研究者の方々のためのオンライン英文校正サービス会社です．ニュージーランドのクライストチャーチから，ニュージーランド在住のネイティブスピーカーによる英文校正サービスをご提供いたします．

スタラード・サイエンティフィック英文校正は2006年にDr. アーロン・スタラードとアナベル・ボーイズ夫妻により設立されました．夫妻は，地球科学（Earth Science）と医療撮影（Medical Imaging）の専門分野でそれぞれ活躍後，日本やヨーロッパの英文校正会社にてフリーランスの英文校正者としての経験を積んで独立し，スタラード・サイエンティフィック英文校正を設立いたしました．

スタラード・サイエンティフィック英文校正の利点をご検討下さい．

- **迅速な対応：**スタンダードサービス4～6日（休日を除く）；エクスプレスサービス1～2日（休日を除く）．
- **お手ごろな価格設定：**250単語あたり，¥1600；学生10%割引．
- **英文校正者のエキスパート：**専門分野に精通した校正経験豊富なネイティブ英文校正者．
- **満足感、高品質を保証：**お客様が私どものサービスに100%御満足いただけるまで料金のお支払いは不要です．私どもの無料*Ask-the-Editor Service* 及び*Draft-to-Journal Guarantee*保証をご覧下さい．
- **お客様の自国の通貨でお支払い：**日本円建てによるお見積り，お支払いをお取り扱いしております．
- **お支払い方法：**日本国内の銀行口座への振込による方法とオンライン上でクレジットカードによるお支払いの方法が選択できます．

www.stallardediting.com

Stallard Scientific Editing, 53 Kotare St, Fendalton, Christchurch 8041, New Zealand
Tel: +64 3 3433327　Internet: www.stallardediting.com
Fax: +64 3 3433328　Email: info@stallardediting.com